

# 令和5年度全国水産試験場長会全国大会（鹿児島）

## 要 録



期 日：令和5年11月16日（木）  
会 場：ホテルマイステイズ鹿児島天文館  
鹿児島市山之口町 2-7  
主 催：全国水産試験場長会



## 目 次

|     |                                |    |
|-----|--------------------------------|----|
| 1   | 大会の構成                          |    |
| (1) | 大会日程                           | 1  |
| (2) | 大会次第                           | 2  |
| (3) | 出席者名簿                          | 3  |
| 2   | 挨拶                             |    |
| (1) | 会長                             | 5  |
| (2) | 来賓                             | 7  |
| (3) | 開催県                            | 13 |
| 3   | 報告                             |    |
| (1) | 会長報告                           | 15 |
| (2) | 令和4年度の活動結果と令和5年度の活動計画について(資料1) | 18 |
| (3) | 国への要望「地域の抱える懸案事項」等について(資料2)    | 25 |
| 4   | 話題提供                           |    |
|     | ・ 鹿児島県における水産業と研究業務について         | 46 |
| 5   | 優秀研究業績全国水産試験場長会会長賞表彰           |    |
| (1) | 審査委員長経過報告・講評                   | 52 |
| (2) | 副賞贈呈・コメント                      | 56 |
| (3) | 会長賞受賞記念講演                      |    |
|     | ①京都府                           | 58 |
|     | ②愛知県                           | 63 |
|     | ③長野県                           | 68 |
| 6   | その他                            | 72 |
| 7   | 次年度開催県                         | 73 |
| 8   | 現地意見交換会                        | 74 |
| 9   | 関係写真                           | 75 |

## 1 大会の構成

### (1) 大会日程

| 大会行事    | 開催日時・開催場所                                 |
|---------|---|
| 全国大会    | 令和5年11月16日 13:30~17:00<br>ホテルマイステイズ鹿児島天文館 |
| 現地意見交換会 | 令和5年11月17日 9:30~11:30<br>枕崎市漁業協同組合ほか      |

(2) 大会次第

令和5年度全国水産試験場長会全国大会（鹿児島県）

次 第

日時 令和5年11月16日（木）13：30～17：00

場所 ホテルマイステイズ鹿児島天文館

1 開 会

2 挨拶

(1) 会 長

(2) 来 賓

3 報 告

(1) 令和4年度活動結果および令和5年度活動計画について

(2) 国への要望「地域の抱える懸案事項」等について

4 話題提供

・鹿児島県における水産業と研究業務について

5 優秀研究業績全国水産試験場長会会長賞表彰式

(1) 審査委員長経過報告・講評

(2) 会長賞表彰式

・会長賞表彰

・副賞贈呈（地域水産試験研究等促進奨励会）

(3) 会長賞受賞記念講演

①「閉鎖性海域における冬季の中層貧酸素発生機構の解明」

－二枚貝養殖の被害防止に向けて－

京都府農林水産技術センター海洋センター・研究部

副主査 船越 裕紀

②「愛知県海域におけるアサリ資源の減少要因と回復策に関する研究」

愛知県水産試験場 漁業生産研究所

主任研究員 日比野 学

③「ミズワタクチビルケイソウの殺藻方法」

長野県水産試験場諏訪支場

支場長 川之辺 素一

6 その他

7 閉 会

### (3) 出席者名簿

○来賓

|                            | 機 関 名 称        | 役 職 名                 | 氏 名    |
|----------------------------|----------------|-----------------------|--------|
| 国<br>等<br>関<br>係<br>機<br>関 | 水産庁 増殖推進部研究指導課 | 課長補佐                  | 大島 達樹  |
|                            |                | 企画調整係員                | 久保田 莉央 |
|                            | 水産研究・教育機構      | 理事長                   | 中山 一郎  |
|                            |                | 理事長補佐役(経営企画部次長)       | 桑原 隆治  |
|                            |                | 経営企画部研究推進<br>コーディネーター | 柴田 玲奈  |
|                            |                | 経営企画部研究調整課主任          | 石原 実咲  |
|                            | (公社)日本水産学会     | 会長                    | 東海 正   |
|                            |                | 理事                    | 蒲原 聡   |
|                            | 地域水産試験研究等促進奨励会 |                       |        |
|                            | (一社)全国水産技術協会   | 専務理事                  | 和田 時夫  |
| (一社)漁港漁場漁村総合研究所            | 技術審議役          | 岩本 泰明                 |        |
| 鹿児島県商工労働水産部                | 次長             | 加塩 信広                 |        |
| 鹿児島県商工労働水産部 水産振興課          | 課長             | 外城 和幸                 |        |

○海面

|              |  |           |        |
|--------------|--|-----------|--------|
| 北海道          | (地独)北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場          | 本部長兼場長    | 木村 稔   |
| 東 北          | (地独)青森県産業技術センター 水産総合研究所                | 所長        | 中田 健一  |
|              | 岩手県水産技術センター                            | 所長        | 神 康俊   |
|              | 宮城県水産技術総合センター                          | 所長        | 浅野 勝志  |
|              | 福島県水産海洋研究センター                          | 所長        | 石田 敏則  |
|              | 茨城県水産試験場                               | 場長        | 海老沢 良忠 |
| 北 部<br>日 本 海 | 秋田県水産振興センター                            | 所長        | 阿部 浩樹  |
|              | 山形県水産研究所                               | 所長        | 阿部 信彦  |
|              | 新潟県水産海洋研究所                             | 所長        | 樋口 正仁  |
|              | 富山県農林水産総合技術センター水産研究所                   | 副所長       | 前田 経雄  |
|              | 石川県水産総合センター                            | 所長        | 福嶋 稔   |
| 東 海          | 千葉県水産総合研究センター                          | 次長        | 池上 直也  |
|              | 東京都島しょ農林水産総合センター                       | 所長        | 中野 卓   |
|              | 神奈川県水産技術センター                           | 所長        | 滝口 直之  |
|              | 静岡県水産・海洋技術研究所                          | 所長        | 萩原 快次  |
|              | 愛知県水産試験場                               | 場長        | 岡田 元   |
|              | 愛知県水産試験場(漁業生産研究所)                      | 主任研究員     | 日比野 学  |
|              | 三重県水産研究所                               | 所長        | 土橋 靖史  |
|              | 和歌山県水産試験場                              | 場長        | 岩橋 恵洋  |
| 瀬戸内海         | (地独)大阪府立環境農林水産総合研究所水産研究部<br>(水産技術センター) | 総括研究員     | 山本 圭吾  |
|              | 兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター              | 所長        | 長島 浩   |
|              |  | 主席研究員兼課長  | 宮原 一隆  |
|              | 岡山県農林水産総合センター 水産研究所                    | 所長        | 草加 耕司  |
|              | 広島県立総合技術研究所 水産海洋技術センター                 | センター長     | 飯田 悦左  |
|              | 徳島県農林水産総合技術支援センター 水産研究課                | 県北分室長兼副課長 | 中西 達也  |
|              | 香川県水産試験場                               | 場長        | 向井 龍男  |
|              | 愛媛県農林水産研究所水産研究センター 栽培資源研究所             | 所長        | 加藤 利弘  |
| 高知県水産試験場     | 場長                                     | 織田 純生     |        |

|                 |                               |            |        |
|-----------------|-------------------------------|------------|--------|
| 西部日本海           | 福井県水産試験場                      | 場長         | 石田 敏一  |
|                 | 京都府農林水産技術センター<br>海洋センター       | 所長         | 粟屋 克彦  |
|                 |                               | 副主任        | 船越 裕紀  |
|                 | 鳥取県水産試験場                      | 場長         | 石原 幸雄  |
|                 | 島根県水産技術センター                   | 所長         | 安木 茂   |
| 山口県水産研究センター     | 主査                            | 大田 寿行      |        |
| 九州・山口           | 福岡県水産海洋技術センター 豊前海研究所          | 所長         | 中川 清   |
|                 | 佐賀県玄海水産振興センター                 | 副所長        | 廣田 健一郎 |
|                 | 佐賀県有明水産振興センター                 | 所長         | 中島 則久  |
|                 | 長崎県総合水産試験場                    | 場長         | 渡邊 孝裕  |
|                 | 熊本県水産研究センター                   | 所長         | 堀田 英一  |
|                 | 大分県農林水産研究指導センター 水産研究部         | 部長         | 伊藤 龍星  |
|                 | 大分県農林水産研究指導センター 水産研究部北部水産グループ | グループ長      | 木村 聡一郎 |
|                 | 宮崎県水産試験場                      | 場長         | 西府 稔也  |
|                 |                               | 副場長兼研究企画主幹 | 安田 広志  |
|                 | 鹿児島県水産技術開発センター                | 所長         | 外園 博人  |
| 副所長(兼)企画・栽培養殖部長 |                               | 田中 敏博      |        |
| 沖縄県水産海洋技術センター   | 所長                            | 七條 裕蔵      |        |

○内水面

|            |                        |      |       |
|------------|------------------------|------|-------|
| 東北・北海道     | (地独)青森県産業技術センター 内水面研究所 | 所長   | 吉田 達  |
|            | 福島県内水面水産試験場            | 場長   | 川田 暁  |
| 関東・甲信越     | 群馬県水産試験場               | 場長   | 小西 浩司 |
|            | 埼玉県水産研究所               | 所長   | 青木 伯生 |
|            | 新潟県内水面水産試験場            | 場長   | 米山洋一  |
|            | 山梨県水産技術センター            | 所長   | 近藤 隆  |
|            | 長野県水産試験場               | 場長   | 小川 滋  |
| 環境部長兼佐久支場長 |                        | 上島 剛 |       |
| 東海・北陸      | 岐阜県水産研究所               | 所長   | 石垣 要吾 |
| 西日本        | 滋賀県水産試験場               | 場長   | 酒井 明久 |
|            | 宮崎県水産試験場内水面支場          | 支場長  | 中村 充志 |

○開催県

|     |                |              |       |
|-----|----------------|--------------|-------|
| 事務局 | 鹿児島県水産技術開発センター | 主任水産業専門普及指導員 | 上野 貴治 |
|     |                | 研究専門員        | 川口 吉徳 |
|     |                | 研究専門員        | 加治屋 大 |
|     |                | 研究専門員        | 仁部 玄通 |
|     |                | 主任研究員        | 大山 隼人 |
|     |                | 研究員          | 上村 沙起 |

## 2 挨拶

### (1) 会長

#### 全国水産試験場長会会長

(兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター所長)長島 浩

皆さんこんにちは。本年4月の人事異動によりまして、全国水産試験場長会の会長を仰せつかっております、兵庫県水産技術センター所長の 長島でございます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

新型コロナが中々終息しない中、またインフルエンザも増加傾向が続く中ではありますが、会員の皆様には令和5年度全国水産試験場会全国大会にご参加いただき、本当にありがとうございます。

また、日頃よりご指導・ご支援をたまわっております、水産庁増殖推進部研究指導課課長補佐の 大島 達樹(おおしま たつき)様、水産研究・教育機構理事長の中山 一郎(なかやま いちろう)様、日本水産学会会長の 東海 正(とうかい ただし)様、地域水産試験研究等促進奨励会の 和田 時夫(わだ ときお)様、そして鹿児島県商工労働水産部次長の 加塩 信広(かしの のぶひろ)様 はじめ、多数のご来賓の皆様にもお忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

今年の夏は、過去最高を大きく上回る圧倒的な暑さだったと言われておりますが、近年、毎年のように自然災害が発生しており、本年も全国各地で集中豪雨などにより甚大な災害に見舞われました。改めまして、被害を受けられた方々に、心からお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復旧復興を願っております。

全国水産試験場長会は、昭和30年の発足以来、70年近くに及ぶ活動の歴史があり、地方における水産試験研究の持続的な発展と水産業の振興に努めてきたところでございます。

この全国大会は、平成23年4月に新制全国水産試験場長会が誕生したことを契機として開催されており、全国を網羅する幅広いネットワークの構築を図るとともに、併せまして、水産業の発展に寄与すると認められる業績を優秀研究業績として表彰しており、今大会におきましても、三つの業績について表彰し、それぞれの研究について、記念講演をしていただくこととしております。なお、受賞者には、地域水産試験研究等促進奨励会様から副賞をご提供いただ

いております。奨励会の皆様には、深く感謝申し上げる次第でございます。

また、昨年度、日本水産学会の東海会長からご紹介いただきました、40歳未満の研究者を対象とした農林水産技術会議の若手農林水産研究者表彰につきまして、今年度から前年度の優秀研究業績表彰受賞者で対象となる方に応募していただいております。

今年度の受賞業績のうち対象となる研究者の方にも、来年度の表彰に応募していただく予定をしております。

今後とも、若手研究者の一層の意欲向上につながるよう、場長会として応援していきたいと思っておりますので、会員の皆様にはご協力のほど、よろしくお願いいたします。

さて、水産業を取り巻く課題は、年々多様化するとともに、これまで以上に厳しさが増しております。

これらの課題を解決していくためには、会員がより一層密接に連携するのはもちろんですが、国の行政や研究機関と一体となって、知恵を出し合って取り組んでいく必要があると考えております。

本日の全国大会は、会員相互、そして関係機関の皆様との連携を深めるための貴重な機会であります。限られた時間の中ではありますが、有意義な大会となりますよう、皆様のご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、本大会の開催に当たりまして、大変お忙しい中、多大なご尽力をいただきました、鹿児島県水産技術開発センターの皆様はじめ、関係の皆様方に心よりお礼申し上げます、開会の挨拶とさせていただきます。

本日は、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。



## (2) 来賓

水産庁増殖推進部研究指導課課長補佐 大島 達樹

只今ご紹介に預かりました、水産庁増殖推進部研究指導課の大島と申します。本来でしたら、増殖推進部長の坂がこの場にてご挨拶申し上げる予定でしたが、臨時国会の対応がありまして、大変失礼ながら急遽欠席とさせていただきます、私が代読する形で、挨拶とさせていただきますと思います。

令和5年度全国水産試験場長会全国大会の開催にあたりご挨拶をさせていただきます。

本日出席の皆様方におかれましては、水産業の振興を図るため、日頃より水産関係の試験研究及び技術開発の推進にご尽力頂き、この場をお借りして、改めてお礼申し上げます。また、本全国大会の開催準備にご尽力をいただいた鹿児島県の関係者の皆様にも、改めてお礼申し上げます。

さて、ご存じのとおり、昨年3月25日には、新たな水産基本計画が策定されました。その中では、「海洋環境の変化も踏まえた水産資源管理の着実な実施」、「増大するリスクも踏まえた水産業の成長産業化の実現」、「地域を支える漁村の活性化の推進」を施策の柱として位置づけ、各般の施策を推進していくこととしています。

このため、令和2年9月に策定した「新たな資源管理の推進に向けたロードマップ」に基づき、新たな資源管理を推進しているところです。皆さまのお力添えをいただき、資源管理の科学的根拠となる資源評価の対象種を平成30年度までの50種から192種に拡大するとともに、数量管理の基礎となるMSYベースの資源評価も、令和3年度時点の17魚種26系群から、令和4年度には22種38系群となりました。この場をお借りいたしまして、関係都道府県の皆様方のご協力に対しお礼申し上げます。

引き続き、資源管理の科学的根拠となる資源調査・評価を着実に実施するとともにその高度化に取り組んでいくためには、関係都道府県の水産試験場の皆様のご協力が不可欠でございます。水産庁としても、関係都道府県のご協力を仰ぎながら、政策を推進していく所存でございます。

また、近年では、海洋環境の変化による資源変動や、地域における主要な水揚げ魚種の変化等に対応する必要があることから、今年3月より「海洋環境の

変化に対応した漁業の在り方に関する検討会」を開催し、取りまとめを公表いたしました。この中で、資源調査・評価の充実・高度化、漁法や漁獲対象魚種の複合化・転換、養殖業との兼業化・転換等へ対応することとしています。

水産業と試験研究と技術開発は密接に関係しており、日本の水産業の発展には試験研究等の発展が不可欠です。今後、これらの水産施策を総合的かつ計画的に推進するためにも、これまで以上に皆様と連携して取り組んで参りたいと考えております。

最後になりますが、本日会長賞を受賞される方々を始め、ご出席の皆様方のご活躍とご健勝、また、本日の大会が実り多いものとなるよう祈念しまして、私のご挨拶とさせていただきます。

水産研究教育機構の中山でございます。

本日は令和5年度全国水産試験場長会全国大会に、お招きいただきまして誠にありがとうございます。私ども普段より、長島会長はじめ場長会の皆様、それから今回この会を運営されている鹿児島の方々、本当にいつもお世話になっております。ありがとうございます。

先ほども坂部長のお話にもありましたが、現在水産をめぐる状況というのは、非常に大きな環境変化、それも自然の環境の変化だけではなく、今や社会の環境、これも大きく変わってきており、食料安全保障の観点からも大きな変換点を迎えていると考えております。

ここでお時間いただきまして我々の情勢報告を簡単にさせていただきたいと思っております。

資料の最後の38ページにメモ形式として記載しております。

まず一つ目です。「令和5年度の全国水産業界関係研究会推進会議」です。これは水研機構が開催する会議で、来年の2月15日木曜に、ビジョンセンター品川で開催することとしましたので、是非とも参加をお願いしたいと思っております。今回も対面と、Webで行います。以前は場長会の幹事の方々が対面のみでしたので数少なかったですが、Web併用ですので、どこからでも参加出来ます。是非とも皆様のご参加をお願いしたいと思っております。

二つ目です。機構のベンチャー企業が初めて生まれました。農水系の独法の中では二つ目となります。これはスマート水産業界を加速するアプリを、水産大学の教員である松本准教授がDigital Fisheries Lab. 合同会社の社長となり、我々の制度のもとで初めての成果活用事業として認定されて、法人登記が完了し、機構発のベンチャーということで昨日、成果報告会の中で、細かくご報告しております。昨日の成果報告会は、YouTubeにあげますので、しばらくすると皆さんご覧になれるようになると思いますので、機会がありましたら是非ご覧いただければと思います。やはりこれからは省力省人化に向けて、このようなアプリ、特にこれは二艘曳きの話ですが、値段の形成等も含めて、非常に有用なものを作ったと自負しております。

3番目としてコロナ渦で中止となっていました、一般公開を再開できました。今回は大体4年か6年ぶりに開催となりますが、それぞれのところで、こ

の開催を心待ちにしておりましたと言われており、やはり地元との繋がりはすごく大事なとさらに認識したところでございます。

4番目としては、国際協力関係に非常に力を入れて進めています。地球の海は全部繋がっていますので、世界の状況を一緒に何とかしていかなければ、というところで国際関係を強化しています。

5番目ですが、機構の組織体制強化に向けた検討を始めております。来年4月1日で若干の体制強化をしたいと考えております。特に全国の場長会の方々との関係では、地方との関係をさらに強化できるような体制を作りたいと現在検討しているところでございます。

その他、成果報告会を11月24日に開催したことと、12月12日に、水産増殖産業イノベーション創出プラットフォーム上で、「持続可能な次世代養殖システムの開発：サバ養殖の新たな展開に向けて」ということで、シンポジウムを準備しておりますので是非ともご参加をお願いしたいと思います。

本日は本当に盛大な全国大会、おめでとうございます。

水産のさらなる振興に向けて、我々はやはり現場との繋がりが最も大事だと思っていますので、場長会の方々との連携をさらに深めるためにも、今回のこの会議が実り多い会議となることを祈念しまして、私のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございます。

## 公益社団法人日本水産学会 会長 東海 正

日本水産学会長の東海でございます。先ずは令和5年度全国水産試験場長会全国大会の開催、お喜び申し上げます。長島会長はじめ、場長会の皆様、特に今回この会議をご準備いただきました鹿児島県水産技術開発センターの皆様、厚く御礼申し上げます。このようにご挨拶の機会をいただきましてありがとうございます。昨年度から会長としてこの全国大会に出席をさせていただくようになりました。

さて、公益社団法人日本水産学会の定款には「水産学に関する学理及びその応用の研究についての発表及び連絡、知識の交換、情報の提供等の事業を行い、水産学に関する研究の進歩普及を図り、もって学術の発展と科学技術の振興に寄与するとともに、人類福祉の向上に寄与することを目的とする」と書かれています。長々と書いてありますが、要は水産学を応用するにあたっては、研究のための研究ではなく、やはり水産の現場に近いところで研究に携わっていらっしゃる公設試験研究機関の皆様と連携、協力しないと、学が応用、現場にまで生きていかないのではないかと考え、現在このように連携をさせていただいております。今期の水産学会の理事会におきましても、場長出身者として前の愛知県水産試験場長の蒲原氏に理事に入らせていただいております。また、日本水産学会誌において「水産研究のフロントから」という企画の連載に、各都道府県の水産試験場をご紹介いただく寄稿をお願いしております。お忙しい中、ご寄稿いただきまして誠にありがとうございます。昨年度は、この場長会から各都道府県の研究課題についての情報も提供いただきました。今年度は、より深く連携していく方法をご相談させていただければと考えております。

日本水産学会では、これからの水産産業をどうすべきかを考えるため、今年の7月19日に理事会主催で「我が国水産産業の成長産業化と強靱化に向けた今後の研究技術開発」というシンポジウムを開催させていただきました。これには水産研究・教育機構の中山理事長にも大変にご協力いただきました。このシンポジウムは、農研機構の生物系特定産業技術研究支援センター（生研支援センター）が取りまとめた「我が国の水産産業におけるリスク強靱性の強化」という研究開発構想をベースに開催したものになります。内容としては、我が国の水産産業には、感染症や不安定な国際情勢などといったリスクがあり、そうしたリスクに対して、水産産業をどのように強靱化していくか？成長産業化していくか？、またそのためにはどういった技術が必要なのか？を議論しました。一つ

には、水産養殖生産関係として、ゲノム編集も含めて、以前からの育種に加えて新たな種苗生産技術について話題提供と議論がありました。また、二つ目として漁業管理と生態系アプローチを取り上げ、広域的な浮魚資源に関するモデルが発展してきているのに対して、沿岸の底魚などでモデルを構築するにはまだデータが足りないといった大変重要な議論がありました。最後の一つとして、サプライチェーンでの問題やそこでの新しい技術の話題提供と議論がありました。これらの内容については、近いうちに日本水産学会誌にシンポジウム記録が掲載されますので、ぜひご覧いただければと思います。

漁業管理と生態系アプローチにおいて議論になった沿岸でのモデル構築と精度向上にはやはりそこを現場として調査、研究されている水産試験場の皆様と一緒に考えていくことが必要だと考えております。ご紹介したシンポジウムでは、大学と水産研究・教育機構、産業界から発表者をお招きして議論しましたが、残念ながら、都道府県の水産試験場からの発表を設けることができませんでした。次にシンポジウムを開催する際には、是非とも全国水産試験場長会と一緒に、沿岸の現場での試験研究をどうしていけば良いか議論できるシンポジウムを皆様方と連携しながら開催できたらと考えている次第です。

環境問題の中では、地球温暖化の問題では国際条約がありますが、海洋プラスチック問題についても現在、国際条約を作る動きがあります。この中には漁業に関連するところとしてALDFG、いわゆる放棄・遺失・投棄された漁具、これもプラスチックですのでこれが大きく特出しされています。また、現在、水産庁漁場資源課海洋保全班と環境省海洋環境課海洋プラスチック汚染対策室が協力して、漁業者による海洋プラごみ回収について、海岸漂着物処理法の事業を使っただけの処理が実施されておりますが、なかなか進んでないところです。瀬戸内海周辺の皆様方はよくご存知だと思いますが、岡山のように独自に漁業者に支援されているところもあります。水産資源も重要ですが、資源の場としての海洋環境の保全、そしてその海洋環境の「守りびと」としての漁業と漁業者を、どのように試験研究から支援していけば良いか、是非いろいろと議論させていただければと考えております。

漁業・水産業が活性化するように、漁業振興にはブランド化や観光業と連携した海業への展開等、より広い分野、広い範囲での連携が今まさに必要になってきていると感じております。本日、この全国大会によって、皆様方の、研究並びに活動がますます活発になることご祈念申し上げて、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

## (2) 開催県

鹿児島県商工労働水産部次長 加塩 信広

ただ今ご紹介のありました鹿児島県商工労働水産部の加塩でございます。  
(来賓ではなく)開催県を代表しまして、一言ご挨拶をさせていただきます。

本日は、ここ鹿児島県で全国水産試験場長会全国大会を開催いたしましたところ、ご来賓の皆様をはじめ、全国の水産試験場長の皆様には、大変お忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

ようこそ鹿児島にいらっしゃいました。

この全国大会は、鹿児島では初めての開催とお聞きしておりますが、本県は、水産業のみならず、農業の産出額も全国2位を誇るなど、食の宝庫と言われ、多彩で豊富な食をお楽しみいただけたと思います。

短い期間とは存じますが、鹿児島の豊かな食を焼酎もあわせて、是非ご堪能いただきたいと思います。

さて、本県は南北600キロに及ぶ広大な海域と多くの離島を有し、黒潮の恵みを受け、多様な漁船漁業とブリ・カンパチなどの養殖業が営まれています。本県の令和3年・海面漁業・養殖業産出額は、約658億円、これにアユなどの内水面漁業やウナギ養殖などの内水面養殖業を加えた産出額は約972億円で、水産業は、本県経済を支える重要な産業の一つとなっています。

本県では、令和2年3月に「県水産業振興基本計画」を策定し、「おさかな王国かごしま」の実現に向け、『持続可能な漁業・養殖業の推進』や『漁業の担い手の育成・確保』、『水産物の流通・加工・販売対策』、『漁業生産の基盤づくり』、そして、『水産技術の開発と普及』の5つの柱を基本目標とし、各種施策の推進に取り組んでいます。なかでも、最近では、県産水産物の輸出拡大に力を入れており、平成30年3月に策定した「県農林水産物輸出促進ビジョン」では、水産物の輸出額を令和7年度に110億円を達成する目標としておりましたが、令和3年度には約135億円の輸出実績となり、目標を前倒して達成しましたことから、先般、輸出目標額を約200億円に見直したところで。そういった中、水産技術開発センターでは、『水産技術の開発と普及』を中心に業務を担っており、カンパチ人工種苗の選抜育種試験や、ウナギ仔魚の飼育実証試験、輸出先国のニーズに対応した商品の製造技術開発のほか、デジタル技術を活用した、海況や漁場予測技術の開発などにも取り組んでいるところです。

近年では、全国的に見られる資源や気候の変動などにより、水産業を取り巻

く環境は厳しさを増しており、水産業を巡る諸課題を解決するには、各水産試験場の取組が必要不可欠なものになっております。こうしたことから、各水産試験場間の情報交換や地方水産研究機関の活動の現状等を中央水産行政や研究機関等に発信されている、全国水産試験場長会の役割が、今後ますます重要になると考えています。

最後になりますが、本日は活発に議論がされ、実り多い大会となりますよう、また、ご参加の皆様のご活躍、そして全国水産試験場長会のますますのご発展を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。